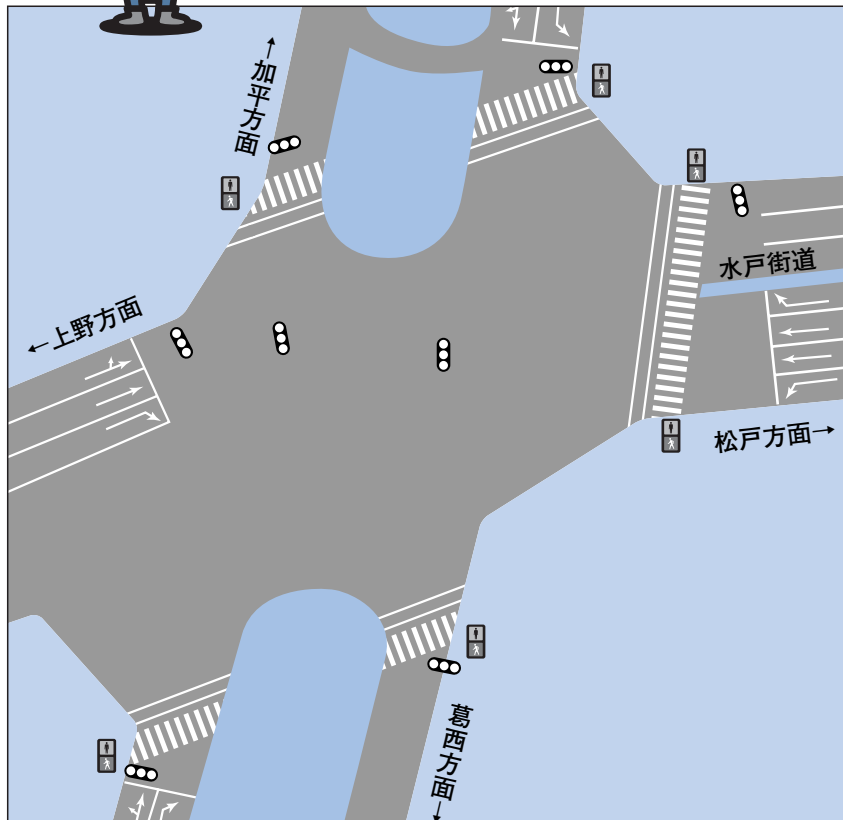


混合交通を観察する
DOCUMENT EYE series—230

信号機のある交差点を横断する自転車利用者の左右確認状況を観察する



ある晴れた日の午後、気になる実際の交通状況を観察しました。



Q1

自転車利用者 588 人中、左右の安全確認を行ってから横断した人は何人でしょうか？



- 観察場所 / 東京都葛飾区青戸 8 丁目付近
- 観察日 / 3 月 18 日 (水曜日)
- 天候 / 晴れ
- 観察時間 / 15:30 ~ 16:30
- 観察者 / 5 名

道路交通法

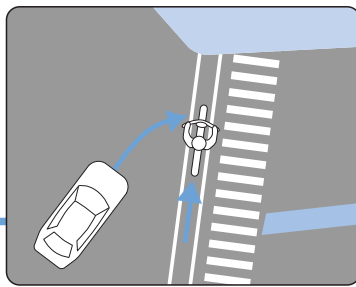
交差点における他の車両等との関係等 (法36条第4項抜粋)
自転車は、交差点に入ろうとする場合、および交差点を通行するときは、「交差道路を通行する車両等」「反対方向からくる右折車両等」「横断歩行者」に特に注意し、かつ、できる限り安全な速度と方法で進行しなければならない。



こんな事故が起きています

Q2

右折するクルマと接触しそうになる自転車を目撃!! 事故を防ぐには、どうすればよいのでしょうか？



信号機のある交差点でも事故は起きています

平成 18 年中の自転車に関連する交通事故のうち、交差点内の事故が 59.7% を占めており、特に信号機のない交差点での事故が全体の 46.0% となっている。

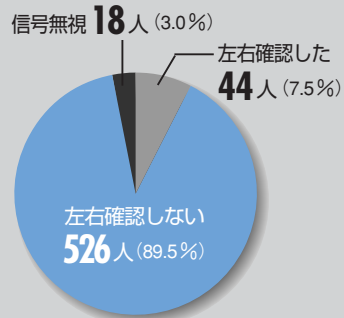
しかし、信号機のある交差点での事故も 13.7% に及び、注意が必要だ。 ((財) 交通事故総合分析センター資料)

解答・解説

実際の観察から

Q1 の解答 : 44 人 (7.5%)

● 信号機のある交差点を横断する自転車利用者の左右確認状況 (588 人中)



	左右確認した	左右確認しない	信号無視	小計
小学生以下	1 (3.7%)	26 (96.3%)	0	27
中学生・高校生	1 (1.3%)	71 (89.9%)	7 (8.8%)	79
成人	38 (8.6%)	397 (89.4%)	9 (2.0%)	444
高齢者	4 (10.5%)	32 (84.2%)	2 (5.3%)	38
小計	44 (7.5%)	526 (89.5%)	18 (3.0%)	588

- 1 時間の観察でこの交差点を横断した自転車利用者は計 588 人。そのうち、左右確認を行ったのは 44 人 (7.5%) だった。信号無視も 18 人 (3.0%) いた。
- 自転車利用者の多くは、歩行者・自転車専用信号機 (以下、信号) が青になったことのみを確認し、安全確認はせずに横断していた。
- 信号待ちの間に携帯電話の画面や友達との会話に夢中になり、信号が青になっても、自分で信号や安全の確認をせず、周囲の人の動きにつられて横断を開始する人も見られた。
- 信号待ちをせずに横断できる状況の時は、一時停止をせずに、交差点の内側のみを確認して横断を開始した例が目立った。中には、信号が赤に変わる直前でスピードを上げて安全確認をせず横断する自転車利用者もいた。
- 右折しようとしたクルマが、単独で遅れてきた自転車に気づかずに横断歩道にさしかかり、自転車利用者側が急停止した例もあった。
- 横断の際、自転車利用者の多くは、向かい側からくる歩行者や自転車に特に注意を払っているようで、右左折しようとするクルマに対しては、頭を動かさなくても見える範囲のみ注意し、積極的に左右確認は行っていなかった。また、接近するクルマのドライバーの顔を見るなど、アイコンタクトを行う例はあまり見られなかった。

信号無視をする自転車も観察された



Q2 の解答 :

自転車利用者もドライバーも安全確認をしっかりと行うことが大切

【解説】

ドライバーは、早く右左折したいと慌ててしまいがち。また、歩行者や自転車利用者側も信号の変わり際などに慌てて横断したり、クルマの死角に知らずに入り込むことが考えられる。特に、スピードが速い自転車はクルマに見落とされやすいので注意が必要だ。



横断時には右左折するクルマが接近する

ここがポイント

- 自転車利用者は、安全な速度で走行し、右左折して接近するクルマのドライバーに認識されているか確認して横断する。
- ドライバーは、急に自転車や歩行者が飛び出してくるかもしれないと意識して安全を確認する。
また、ピラー (窓枠) の死角に歩行者や自転車が隠れてしまうことがあるので、確認する時は顔を動かす。

ワンポイント DATA

子どもの自転車利用者は他の年齢層と比べ違反のある割合が高い

● 自転車利用者 (第 1・2 当事者) の法令違反別・年齢層別死傷者数 (平成 20 年中 警察庁資料)

